中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果

三重大学

平成21年３月

国立大学法人評価委員会

目　　次

平成20年度に国立大学法人評価委員会が実施した国立大学法人の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

国立大学法人三重大学の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果　・・・・　７

１　全体評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７

２　項目別評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８

Ⅰ．教育研究等の質の向上の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８

Ⅱ．業務運営・財務内容等の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１５

【独立行政法人大学評価・学位授与機構が実施した現況分析】

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１９

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６７

意見申立てへの対応　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８９

平成 20 年度に国立大学法人評価委員会が実施した国立大学法人の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価について

評価の目的

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人の中期目標期間の業務実績評価に係る実施要領（平成 19 年４月国立大学法人評価委員会決定、平成 20 年３月一部改正）」（以下、「実施要領」）に従い、国立大学法人法第 35 条により準用される独立行政法人通則法第 34 条に基づく「中期目標に係る業務の実績に関する評価」の基本をなすものとして、国立大学法人及び大学共同利用機関法人（以下、「法人」という。）の平成 16 年度から平成 19 年度までの４年間の業務の実績について、国立大学法人評価委員会（委員長：野依良治　独立行政法人理化学研究所理事長）が評価を行っています。

この国立大学法人評価は、

(1)　法人の継続的な質的向上に資するとともに、法人の状況を分かりやすく示し、社会への説明責任を果たしていくこと、

(2)　教育研究の高度化、個性豊かな大学づくり、法人運営の活性化等を目指した法人の取組を積極的に支援することにより、長期的な視点から法人の発展に資するものとなること、

(3)　評価結果を踏まえて、各法人が自主的に行う組織・業務全般の見直しや中期目標・中期計画の検討に資するものとなること

を目的として実施しています。

１　評価方法

国立大学法人評価は、大学等の教育研究の特性に配慮しつつ、各法人の自己点検・評価に基づき、教育研究の状況や業務運営・財務内容の状況等について、各法人毎に定められた中期目標の達成状況等の調査・分析を行い、法人の業務実績全体について総合的に評価を実施いたしました。したがって、本評価制度は、各法人間の相対比較をするものではないことに留意する必要があります。

このうち、教育研究の状況については、専門的な観点からきめ細かく評価を行うことが必要であることに配慮し、国立大学法人法に基づき、国立大学法人評価委員会が、独立行政法人大学評価・学位授与機構（以下「機構」という。）に対し評価の実施を要請し、当該評価の結果を尊重して評価を行っております。

(1) 法人における自己点検・評価

各法人は、実施要領等に従って、自己点検・評価を実施し、平成 16 年度から 19 年度までの期間の業務の実績に係る報告書を作成しました。

(2) 機構における教育研究の状況の評価

機構においては、教育研究の状況の評価として、「中期目標の達成状況の評価」及び「学部・研究科等の現況分析」を行いました。

中期目標の達成状況の評価は、「教育研究等の質の向上」の目標に係る「教育に関する目標」、「研究に関する目標」、「社会との連携、国際交流等に関する目標」の３項目（※大学共同利用機関法人については、「共同利用等に関する目標」を加えた４項目）について、各法人から提出された達成状況報告書等を調査・分析するとともに、訪問調査を実施し、書面では確認できなかった事柄等の確認を行いながら評価を実施しました。

学部・研究科等の現況分析は、①主要な教育研究組織毎に教育研究の水準や質の向上度を明らかにすることが、中期目標の達成状況を適切に判断するために必要であるとともに、②各法人の個性を伸ばし質を高める観点から、各法人が自主的に行う組織及び業務の検討や次期中期目標・中期計画の素案に関する検討に、評価結果を反映させるためにも必要であるとの趣旨で実施しました。各学部・研究科等における教育、研究の目的に照らし、「教育の水準及び質の向上度」「研究の水準及び質の向上度」について、各法人から提出された現況調査表等を調査・分析して評価を実施しました。

(3) 国立大学法人評価委員会における評価

国立大学法人評価委員会においては、「業務運営の改善及び効率化」、「財務内容の改善」、「自己点検・評価及び情報提供」、「その他業務運営に関する重要事項（施設設備の整備・活用、安全管理等）」の４項目について、各法人から提出された実績報告書等を調査・分析するとともに、学長・機構長等からのヒアリング、財務諸表等の分析も踏まえながら評価を実施しました。

教育研究等の状況については、機構における評価結果を基本的にそのまま受け入れつつ、国立大学法人評価委員会において附属病院及び附属学校の状況に関する評価を実施するとともに、定員超過の状況の確認を行っております。

① 全体評価

・ 中期目標期間における業務実績の全体について、各法人の特性や項目別評価の状況を踏まえつつ、記述式により総合的な評価を行っております。

② 項目別評価

・ 「教育に関する目標」、「研究に関する目標」、「その他の目標」、「業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「財務内容の改善に関する目標」、「自己点検・評価及び情報提供に関する目標」、「その他業務運営に関する重要目標（施設設備の整備・活用、安全管理等）」の７項目（※大学共同利用機関法人については、「共同利用等に関する目標」を加えた８項目）については、以下の５種類により達成状況を示しております。なお、これらの水準は、各法人を通じた最小限の共通の観点を踏まえつつも、各法人の設定した中期目標に対応して示されるものであり、各法人間の相対比較をするものではないことに留意する必要があります。

「中期目標の達成状況が非常に優れている」
「中期目標の達成状況が良好である」
「中期目標の達成状況がおおむね良好である」
「中期目標の達成状況が不十分である」
「中期目標の達成のためには重大な改善事項がある」

２　評価体制

国立大学法人評価委員会の国立大学法人分科会、大学共同利用機関法人分科会の下に評価チームを設置して、調査・分析を行っております。評価チームとしては、国立大学法人分科会については、近隣地区の大学を担当する基本チーム及び附属病院の専門評価チームを、大学共同利用機関法人分科会については、各法人を担当するチームを設置して評価を行っております。

機構が行う教育研究の状況の評価については、機構の国立大学教育研究評価委員会の下に具体的な評価を実施するために、達成状況判定会議、現況分析部会及び研究業績水準判定組織を編成し、評価を行っております。達成状況判定会議は、各法人の規模・構成に応じた８つのグループを編成し、さらにグループ内に複数のチームを設置して評価を行っております。現況分析部会は、分野別の１０の学系部会を設置して評価を行っております。研究業績水準判定組織は、科学研究費補助金の分類を基とした６６の専門部会を設置して評価を行っております。

３　審議経過

【国立大学法人評価委員会における評価】

平成20年

・６月30日まで	各法人から実績報告書、財務諸表等の提出
・７月22日～８月７日	各評価チーム会議において実績報告書等の調査・分析
・７月29日～８月11日	各法人から業務の実績についてヒアリング（国立大学法人）
・９月１日	〃　（大学共同利用機関法人）
・12月８日～12月19日	各評価チーム会議において評価結果（骨子案）の検討

平成21年

・２月23日～２月27日	各評価チーム会議において評価結果（骨子案）の検討
・２月26日	大学共同利用機関法人分科会において評価結果（素案）の審議 （意見申立ての機会：３月６日～13日）
・３月６日	国立大学法人分科会において評価結果（素案）の審議 （意見申立ての機会：３月６日～13日）
・３月26日	国立大学法人評価委員会総会において評価結果（案）の審議・決定

【機構における教育研究の状況の評価】

平成19年

・４月　６日	国立大学法人評価委員会から教育研究の状況の評価の実施の要請

平成20年

・７月～８月	書面調査
・９月２日～９月８日	現況分析部会（第１回）において評価結果（素案）の審議
・９月11日～９月30日	達成状況判定会議（第１回）において評価結果（素案）の審議
・10月14日～11月28日	法人への訪問調査
・12月１日～12月５日	現況分析部会（第２回）において評価結果（原案）の審議
・12月15日～12月19日	達成状況判定会議（第２回）において評価結果（原案）の審議

平成21年

・１月８日	国立大学教育研究評価委員会において評価報告書（原案）の審議 （意見申立ての機会：１月13日～30日）
・２月10日	意見申立審査会において意見申立の対応審議
・２月19日	国立大学教育研究評価委員会において評価報告書（案）の審議・決定 機構から国立大学法人評価委員会へ教育研究の状況の評価結果の提出

４　国立大学法人評価委員会委員（平成 21 年３月現在）

（委員）１７名

あらかわ　まさあき 荒川　正昭	新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター長、 新潟県福祉保健部・病院局参与
いいよし　あつお ○飯吉　厚夫	中部大学総長
いけはた　せつほ 池端　雪浦	前東京外国語大学長
えがみ　せつこ 江上　節子	東日本旅客鉄道株式会社顧問、 大正製薬（株）監査役
かつかた　しんいち 勝方　信一	教育ジャーナリスト
からき　さちこ 唐木　幸子	オリンパス株式会社研究開発センター研究開発本部基礎技術部長
くさま　ともこ 草間　朋子	大分県立看護科学大学長
ごとう　しょうこ 後藤　祥子	日本女子大学長・理事長
つげ　あやお 柘植　綾夫	芝浦工業大学長
てらしま　じつろう 寺島　実郎	株式会社三井物産戦略研究所所長、 財団法人日本総合研究所理事長
とりい　やすひこ 鳥居　泰彦	慶應義塾学事顧問、 日本私立学校振興・共済事業団理事長
なぐも　みつお 南雲　光男	日本サービス・流通労働組合連合顧問
のより　りょうじ ◎野依　良治	独立行政法人理化学研究所理事長
ひるた　しろう 蛭田　史郎	旭化成株式会社社長、 経団連教育問題委員会共同委員長
みやうち　しのぶ 宮内　忍	宮内公認会計士事務所所長
みやはら　ひでお 宮原　秀夫	独立行政法人情報通信研究機構理事長
もりわき　みちこ 森脇　道子	自由が丘産能短期大学長

（臨時委員）３名

たち　あきら 舘　昭	桜美林大学大学院国際学研究科教授
やまもと　きよし 山本　清	独立行政法人国立大学財務・経営センター研究部長
わだ　よしひろ 和田　義博	和田義博会計事務所所長

※　◎は委員長、○は委員長代理

国立大学法人評価委員会の下に置かれる国立大学法人分科会、大学共同利用機関法人分科会及び評価チームの委員については、文部科学省のウェブサイトをご覧ください。

５　大学評価・学位授与機構　国立大学教育研究評価委員会委員（平成 21 年３月現在）

（委員）３０名

浅野　攝郎	東京大学名誉教授
飯野　正子	津田塾大学長
池田　髙良	長崎県立大学長
岡田　修　三	東京海上日動火災保険株式会社特別任命参与
金田　嘉行	ソニー株式会社社友
○北原　保雄	前日本学生支援機構理事長
木村　靖二	立正大学教授
神津　忠彦	東京女子医科大学顧問・名誉教授
河野　通方	独立行政法人大学評価・学位授与機構評価研究部長
小林　　誠	独立行政法人日本学術振興会理事
児玉　隆夫	学校法人帝塚山学院学院長
五味　文彦	放送大学教授
齋藤　八重子	前東京都立九段高等学校長
鈴木　昭憲	東京大学名誉教授
瀬戸　純　一	駿河台大学教授
舘　　昭	桜美林大学教授
◎丹保　憲仁	北海道大学名誉教授
中川　幸也	株式会社ＩＨＩ取締役
中里　　毅	前ＮＨＫ学園理事長
中洌　正堯	兵庫教育大学名誉教授
中野　仁雄	九州大学名誉教授
橋本　貴美子	京都府立南陽高等学校長
平松　一夫	関西学院大学教授
廣部　雅昭	前静岡県立大学長
ﾊﾝｽ ﾕｰｹﾞﾝ･ﾏﾙｸｽ	学校法人南山学園理事長
前原　澄子	京都橘大学看護学部長
松岡　　博	帝塚山大学長
馬渡　尚　憲	宮城大学長
牟田　泰三	福山大学長
和田　敬四郎	放送大学石川学習センター所長

※　◎は委員長、○は副委員長

国立大学教育研究評価委員会の下に置かれる各種部会等の委員については、独立行政法人大学評価・学位授与機構のウェブサイトをご覧ください。

国立大学法人三重大学の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果

１　全体評価

三重大学は、教育・研究の実績と伝統を踏まえ「人類福祉の増進」、「自然の中での人類の共生」、「地域社会の発展」に貢献できる「人材の育成と研究の創成」を目指し、学術文化の受発信拠点となることを基本理念として、大学運営に取り組んでいる。この理念の下、学長のリーダーシップにより、教育職員、一般職員、幹部職員別に目標チャレンジ活動の推進（PDCA サイクルの実施）によって、業務運営のみならず教育・研究や、社会貢献・国際交流等大学運営の全般にわたる改善・効率化に努めている。今後、学生収容定員の充足率等、法人運営の実務面において PDCA サイクルが着実に機能するよう一層の取組が期待される。

中期目標期間の業務実績の状況は、「業務運営の改善及び効率化に関する目標」の項目で中期目標の達成状況が不十分であるが、それ以外の項目で中期目標の達成状況が良好又はおおむね良好である。業務実績のうち、主な特記事項は以下のとおりである。

教育については、「生きる力」の涵養を図るための授業科目の開設、プレゼンテーション能力向上のための「大学生のためのレポート作成ハンドブック」の作成、キャリアカウンセラー等の配置、「四日市学」等の三重県を対象地域とした実地調査の授業科目の開設、人間発達科学研究の成果を活用した修学達成度評価の開発等の取組を行っている。

研究については、創造開発研究センターや三重 TLO を中心とした地域産業への技術移転の促進、都市エリア産学官連携促進事業の実施、みえ治験医療ネットワークの構築、発明届出数等の功績者の表彰等の取組を行っている。

社会連携・国際交流等については、三重大学振興基金や国際交流基金を活用した新留学生宿舎の建設、地域住民を対象にした防災シンポジウムの開催等の取組を行っている。

業務運営では、外部コンサルタントを導入し、文書業務のパート活用に関する業務改善等 65 の業務改善を実施している。また、事務組織のフラット化、組織編成の柔軟化のため、課及び係組織を廃止し、チーム制を導入している。

一方、大学院博士課程において、平成 19 年度において一定の学生収容定員の充足率を満たさなかったことから、今後、速やかに、定員の充足に向け、入学定員の適正化に努めることや、入学者の学力水準に留意しつつ充足に努めることが求められる。

また、外国人教員の採用の増加のための具体的な施策が十分には行われておらず、平成 15 年度から平成 19 年度にかけて外国人教員数が減少していることから、着実な取組が求められる。

財務内容については、外部資金の獲得に資するため、東海 5 大学新技術説明会、四日市コンビナート産官学技術講演会、三重大学と富山大学の特許・シーズの発表会、みえ研究交流フォーラムの開催等に取り組んでおり、共同研究、受託研究及び奨学寄附金等の外部資金が増加してきている。

その他業務運営については、リスク管理状況調査を実施し、携帯版パンフレット「三重大学防災ガイド」、危機管理マニュアルを作成し、全学的な安全管理に取り組んでいる。

２　項目別評価

Ⅰ．教育研究等の質の向上の状況

（Ⅰ）教育に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である
【判断理由】「教育に関する目標」に係る中期目標（４項目）のうち、３項目が「良好」、１項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

２．各中期目標の達成状況

(1) 教育の成果等に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況がおおむね良好である
［判断理由］「教育の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（１項目）が「おおむね良好」であり、この結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(2) 教育内容等に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況が良好である
［判断理由］「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（６項目）のうち、１項目が「非常に優れている」、２項目が「良好」、３項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(3) 教育の実施体制等に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況が良好である
［判断理由］「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（３項目）のうち、２項目が「良好」、１項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

（4）学生への支援に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況が良好である
［判断理由］「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1項目）が「良好」であることから判断した。

３．優れた点、改善を要する点、特色ある点

（優れた点）

○　中期計画「生きる力を涵養する」について、共通教育における「大学とキャリア形成」に関する授業群及びキャリア・環境・国際インターンシップに関する各授業科目が開設され、「生きる力」の涵養が図られていることは、インターンシップへの学生参加者の増加や、学生の満足度調査における「現場体験実習やインターンシップの機会」等の関連評価項目の満足度が顕著に向上している点で、優れていると判断される。

○　中期計画「コミュニケーション力の涵養に効果的な指導方法を工夫する」について、e-learning システム「三重大学 Moodle（ムードル）」や PBL 教育（Problem/Project Based Learning）の導入を全学的に推進しており、また、『大学生のためのレポート作成ハンドブック』の作成等によりプレゼンテーション能力の向上に努めているなど、教育効果を高める工夫がなされていることは、優れていると判断される。

○　中期計画「学生の社会活動、ボランティア活動、課外活動等に対して適切な支援と指導に務める」について、学生の課外活動に対する積極的な支援を行っていることは、環境省等が主催する「環境コミュニケーション大賞」優秀賞の受賞や、環境マネジメントシステム（ISO14001）認証取得に結びついた点で、優れていると判断される。

○　中期計画「情報基盤に関する組織・人事体制の改善、効率的な予算執行、外部資金の獲得等運営・管理のための基盤環境整備に取り組む」について、平成 18 年度に総合情報処理センターと附属図書館両施設の機能をウェブサイトで統合した学術情報ポータルセンターを設置したほか、外部資金の獲得等により情報基盤の整備が図られていることは、学生の満足度調査における「学習に必要な図書・論文雑誌・データベース等の電子情報の充実度」等の関連評価項目の満足度が顕著に向上している点で、優れていると判断される。

○　中期計画「就職情報室の充実や就職相談体制の強化を図る」について、キャリア支援センター等を設置しキャリアカウンセラーの採用を行い、学生向け就職活動支援ブック『夢への STEP』や企業向け案内『求人を予定されている企業等の皆様へ』等を制作し、また、平成 19 年度には就職ガイダンスを年 41 回開催するなど精力的な活動を行っていることは、就職ガイダンスに延べ 4,000 名を超える学生が参加する等の実績を上げており、就職率の向上等に結びつけている点で、優れていると判断される。

（特色ある点）

○　中期計画「本学独自の修学達成度評価方法を作成し、教育成果の検証を進める」について、三重大学の基本的教育目標に掲げる「４つの力」（感じる力、考える力、生き

る力、コミュニケーション力）を測定するために、人間発達科学研究の成果を活用し「修学達成度評価」の開発を行っていることは、教育成果を意欲的に検証している点で、特色ある取組であると判断される。

○　中期計画「国際性を生かしたカリキュラムを工夫する」について、国際性を活かしたカリキュラムの工夫の中で、教育学部において天津師範大学との協定によって生まれたダブルディグリー制度が開設されていることは、学部レベルの試みとして注目に値する点で、特色ある取組であると判断される。

○　中期計画「現場体験授業等、感じる力の涵養に効果的な指導方法を工夫する」について、「四日市学」など三重県を対象地域とした実地調査の授業科目が開設され、「感じる力」の涵養に向けて、現場体験型授業を地域と関連させて展開する工夫がなされていることは、特色ある取組であると判断される。

○　中期計画「創意に溢れた重点化教育プロジェクトを選び、全学的な実施に向けて組織的に取り組む。(三重大学教育 GP)」について、平成 16 年度から「三重大学教育 GP」を実施し、創意に溢れた教育プロジェクトを組織的に支援していることは、着実に実績を上げている点で、特色ある取組であると判断される。

○　中期計画「修学や学生生活全般にわたる相談体制の充実を図る」について、学生生活全般にわたって相談を受ける「学生なんでも相談室」に専任カウンセラーを配置し、学生相談にあたっているほか、学生が学生を支援する「ピアサポーター制度」の実施、学生の悩みに対応するためのマニュアルを教職員及び学生向けにそれぞれ制作し配付するなど、相談体制の充実に努めていることは、特色ある取組であると判断される。

(II) 研究に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である

【判断理由】「研究に関する目標」に係る中期目標（２項目）のすべてが「良好」であることから判断した。

２．各中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況が良好である

［判断理由］「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（２項目）のすべてが「良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

（2）研究実施体制等の整備に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況が良好である
［判断理由］「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（４項目）のうち、３項目が「良好」、１項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

３．優れた点、改善を要する点、特色ある点

（優れた点）

○　中期計画「三重 TLO 等とも共同して地域産業への学術的知的成果や技術移転を促進する」について、創造開発研究センターや三重 TLO を中心として地域産業への学術的知的成果や技術移転の促進に努めていることは、共同研究費や受託研究費、奨学寄附金等の外部資金獲得額及び技術移転件数やロイヤリティ等収入が顕著に増加するなど、研究成果が社会に還元されている点で、優れていると判断される。

○　中期計画「地域公共団体や地域企業との共同研究を推進する」について、地方自治体等や地域企業との共同研究を積極的に推進していることは、三重県内における共同研究・受託研究件数において着実な実績を上げており、とりわけ三重県等との連携により都市エリア産学官連携促進事業を行うなど、地域連携が具体的な事業展開に結実している点で、優れていると判断される。

（特色ある点）

○　中期計画「地方自治体の地域振興プロジェクトや民間企業との地域性を生かした共同研究事業を積極的に推進する」について、「みえメディカルバレー事業」への参画、「みえ治験医療ネットワーク」の構築、「三重大学伊賀研究拠点」の開設等地域連携に対して意欲的な取組がなされていることは、特色ある取組であると判断される。

○　中期計画「三重大学を代表する研究課題を採択し、期限を限って特段の優遇支援を行う。（三重大学 COE）」について、「三重大学 COE」プロジェクトを始動させ、「世界に誇れる世界トップレベルの研究拠点」、「学部として育てたい国内トップレベルの研究」、「学部として育てたい若手研究」の区分を設け、大学として重点的に取り組むべき研究課題を明確にし、支援していることは、特色ある取組であると判断される。

○　中期計画「成功報酬制度等の検討を含め、特許取得を教育職員活動評価の重要な項目と位置付ける」について、特許出願等を「教員個人評価」の項目に加え、また、「国立大学法人三重大学知的財産規程」の制定により特許出願や発明者への補償金を付与する制度を構築し、発明届出数等の功績者の表彰を行っていることは、教職員等のインセンティブを高めている点で、特色ある取組であると判断される。

（III）その他の目標

（１）社会との連携、国際交流等に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である
【判断理由】「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（２項目）のうち、１項目が「良好」、１項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

２．各中期目標の達成状況

(1) 社会との連携に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況がおおむね良好である
［判断理由］「社会との連携に関する目標」の下に定められている具体的な目標（２項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

(2) 国際交流に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況が良好である
［判断理由］「国際交流に関する目標」の下に定められている具体的な目標（６項目）のうち、４項目が「良好」、２項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

３．優れた点、改善を要する点、特色ある点

（優れた点）
○　中期計画「国際交流基金の募金活動を行う」について、募金活動を積極的に行い獲得した三重大学振興基金や国際交流基金を有効に活用し、新留学生宿舎の建設という具体的な成果につなげている点で、優れていると判断される。

（特色ある点）
○　中期計画「地域住民が参画できる教育活動を充実し、継続する」について、「三重大学災害対策プロジェクト室」を中心に地方自治体との共催により、地域住民を対象とした防災シンポジウムを開催し、防災に関する注意や興味を喚起する試みを展開していることは、特色ある取組であると判断される。

（２）附属病院に関する目標

卒後臨床研修部を中心に、研修カリキュラムの見直し、県内病院とのたすき掛け研修、

独自のオリジナリティあふれるプログラムの作成等、質の高い研修が行われている。また、「血管内治療の細胞治療モデルの確立」等、先端医療、探索的医療の推進に取り組んでいる。診療では、臓器別診療体制への移行、地域医療機関とも連携して、がん診療、難病疾患の治療等、高度な医療を提供している。

平成 16 ～ 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○　教育・研究面

・　県内における研修医の定着化、へき地を含めた地域医療の充実、医師不足の解消を図るために、特定非営利活動法人 MMC（Mie Medical Complex）卒後臨床研修センターや「みえ医師バンク」を設立させて、活発な教育活動を展開している。

・　血管内治療（大血管）、培養表皮シートを用いた植皮術、形状記憶合金製メネンプレートの作成等、最新の治験や医療技術の開発を推進している。

・　臨床研究の推進のためにも、臨床研究開発センターの充実と積極的な活用等、さらなる取組が期待される。

○　診療面

・　「都道府県がん診療連携拠点病院」として、専門的ながん医療を行うとともに、地域病院との研修会、市民公開講座の開催等、県の中心的ながん治療機関としての役割を果たしている。

・　生体肝移植術、腎移植術、細胞移植術等、高度先進医療を推進しており、その中でも生体肝移植の成績は、全国レベルの患者生存率を上回る成績を上げている。

・　臓器別診療体制については、総合診療・全人的医療にも配慮した取組が期待される。

○　運営面

・　医学部・附属病院の教育職員に対して業績評価と任期制を導入するとともに、財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審し、認定証の交付を受けている。

・　病院長と診療科長との経営懇談会を開催し、病床稼働率の向上、在院日数短縮、経費節減を求めた結果、収入目標を達成するなど収支の改善に努めている。

・　病院経営戦略会議では、外部から経営の専門家を参画させ、また、経営改善委員会に民間病院経営経験者を病院長補佐として参画させ病院の活性化を図っている。

・　患者アンケート調査については、ユニークな調査（病院にとってのネガティブ表現からの分析）を行っており、患者サービスの向上を図っている。

平成 16 ～ 19 年度の実績のうち、下記の事項に課題がある。

○　教育・研究面

・　研修医、看護師等の確保に向け、オリジナリティあふれるプログラムの提供等、さらなる取組が求められる。

（３）附属学校園に関する目標

附属学校は、学部との緊密な連携の下に、新たな教育を探求する実験校及び新たな質が求められる教育職員養成の実地研究の場としての機能強化を目指している。

例えば、附属学校における学部教員による授業の実施により、学部と連携した教育実習改善への取組を進めているとともに、授業を参観した大学院生と学部学生のための有意義な教育実地研究の場としての附属学校の機能を充実させることにつなげている。

平成 16 ～ 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○　学部の「教育実習指導のあり方研究会」に各附属学校園から２名が参加して実践的指導力の具体的内容を検討し、附属学校教員、学部教員及び学生に対する意識調査の結果を基に教育実習の改善を図るとともに、平成 18 年度に新設した「教育実地研究基礎」の実施を学部教員と連携して進めている。平成 19 年度には、附属学校教員と学部教員を委員とする「教育実習モデルカリキュラムに関する研究プロジェクト」を立ち上げ、教育実習が達成すべき目標と指導内容の指針の作成、事前指導等の位置付けの明確化に取り組んでいる。

○　小学校では、大学・三重県・津市と連携した国際教育推進プランに参加し、中学校では、天津師範大学附属中学校と覚書を交わし、生徒・教員間の交流教育を実施するなど、国際理解教育を進めている。

（Ⅳ）定員超過の状況

○　平成 16 年度から平成 19 年度まで一貫して人文社会科学研究科及び工学研究科の定員超過率が 130 ％を上回っていることから、今後、速やかに入学定員の見直しを含め定員超過の改善を行うことが求められる。また、平成 19 年度において、生物資源学研究科の定員超過率が 130 ％を上回っていることから、今後、入学定員の見直しを含め定員超過の改善に努めることが求められる。

Ⅱ．業務運営・財務内容等の状況

（１）業務運営の改善及び効率化に関する目標
① 運営体制の改善
② 教育研究組織の見直し
③ 人事の適正化
④ 事務等の効率化・合理化

平成 16 ～ 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 三重大学 COE プロジェクトを実施し、中間評価により助成配分の見直しを行うなど組織的に研究活動の推進に取り組んでおり、科学技術振興調整費や独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の外部資金等、20 件を超える競争的経費等の採択に結実している。また、三重大学教育 GP プログラムの実施では、天津師範大学（中国）とのダブルディグリー制度の創設、魅力ある大学院教育イニシアティブへの採択につながるなど取組の効果が現れている。
○ 管理運営組織のスリム化・効率化に向けた体制整備として、平成 16 年度から毎年、委員会の運営状況の点検を行い、従来あった 38 の委員会を 23 の委員会に再編している。
○ 業務の改善等を図るため、外部コンサルタントを導入し、文書業務のパート活用に関する業務改善等 65 の業務改善を実施している。また、事務組織のフラット化、組織編成の柔軟化のため、課及び係組織を廃止し、チーム制を導入している。

平成 16 ～ 19 年度の実績のうち、下記の事項に課題がある。

○ 大学院博士課程において、平成 19 年度の学生収容定員の充足率が 90 ％を満たさなかったことから、今後、速やかに、定員の充足に向け、入学定員の適正化に努めることや、入学者の学力水準に留意しつつ充足に努めることが求められる。

【法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる事項】
○ 中期計画【15】「女性教育職員・外国人教職員の増加に努める。」（実績報告書 15 頁）については、外国人教員の採用の増加のための具体的な施策が十分には行われておらず、平成 15 年度から平成 19 年度にかけて外国人教員数が減少していることから、中期計画を十分には実施していないものと認められる。

【評定】中期目標の達成状況が不十分である
（理由）中期計画の記載 33 事項中 32 事項が「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるが、1 事項について「中期計画を十分には実施していない」と認められ、さらに、大学院博士課程において学生収容定員の充足率が 90 ％を満たさなかったこと等を総合的に勘案したことによ

る。

（２）財務内容の改善に関する目標
①　外部研究資金その他の自己収入の増加
②　経費の抑制
③　資産の運用管理の改善

平成 16 ～ 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○　大学のシーズを発表し、外部資金の獲得に資するため、東海５大学新技術説明会、四日市コンビナート産官学技術講演会、三重大学と富山大学の特許・シーズの発表会、三重大学先端研究シンポジウム、みえ研究交流フォーラム等を開催するなどの取組により、平成 19 年度の共同研究、受託研究及び奨学寄附金による外部資金は 17 億 4,000 万円（対平成 16 年度比３億円増）となっている。
○　一般管理費のうち、消耗品費、光熱水費等について、コスト削減アクションプログラムを策定し、平成 19 年度は平成 16 年度と比較して、消耗品費で 9.4 ％、水道光熱費で 1.1%、清掃費で 22.4 ％、定期刊行物購入費で 29.4 ％の経費節減に努めている。
○　その他自己収入の増加方策として、学内資金の定期預金及び５年国債による運用、飲料等自動販売機の貸付料方式の見直し、附属農場の牛の売り払い、職員宿舎の入居率の向上等に取り組み、増収に努めている。
○　中期計画における総人件費改革を踏まえた人件費削減目標の達成に向けて、着実に人件費削減が行われている。今後とも、中期目標・中期計画の達成に向け、教育研究の質の確保に配慮しつつ、人件費削減の取組を行うことが期待される。

【評定】中期目標の達成状況が良好である
（理由）中期計画の記載 11 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（３）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標
①　評価の充実
②　情報公開等の推進

平成 16 ～ 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○　自己点検・評価の結果が、大学運営の実務面の改善に着実に結びつくよう、PDCA サイクルの一層の取組が期待される。
○　広報マニュアルを作成し、教員の諸活動に関する情報等をウェブサイトを活用し情

報集約に努めるとともに、マスコミへの情報提供の増大に取り組んでいる。

○　大学広報誌「三重大Ｘ（えっくす）」を活用して広報活動を行うとともに、大学への意見･要望等、情報収集を行っている。また、大学の最新ニュース、在学生の諸活動等をメールマガジンにより配信し、大学のアピールに努めている。

○　現代・明治期･江戸期といった時代の流れをインターネット上で見ることができる地図情報コンテンツ「歴史街道 GIS（地理情報システム）」の作成に三重県と共同で取り組み、構築・公開している。

【評定】中期目標の達成状況が良好である

（理由）中期計画の記載 6 事項すべてが「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（４）その他業務運営に関する重要目標

①　施設設備の整備・活用等

②　安全管理

平成 16 ～ 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○　施設・設備を有効活用するため、施設の利用状況等のデータベースを構築し、利用率の低い箇所等について使用変更等の提案を行っている。また、総合研究棟Ⅱの共用実験室にスペース使用料を徴収している。

○　環境マネジメントシステムの構築による運営を開始し、環境マネジメントシステム（ISO14001）を取得するなど環境に配慮した取組を実施している。

○　大学施設災害発生時参集要項を整備し、地震発生時におる初動態勢等を明確にしている。

○　大学におけるリスク管理状況調査を実施し、携帯版パンフレット「三重大学防災ガイド」、危機管理マニュアル等を作成し、全学的な安全管理に取り組んでいる。

○　研究費の不正使用防止のため、公的研究費不正防止に関する規程の整備、公的研究費不正防止推進委員会の設置、コンプライアンス委員会を整備するなど法令遵守に向けた体制整備を図っている。

【評定】中期目標の達成状況が良好である

（理由）中期計画の記載 11 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

1.	人文学部	教育 1-1
2.	人文社会科学研究科	教育 2-1
3.	教育学部	教育 3-1
4.	教育学研究科	教育 4-1
5.	医学部	教育 5-1
6.	医学系研究科	教育 6-1
7.	工学部	教育 7-1
8.	工学研究科	教育 8-1
9.	生物資源学部	教育 9-1
10.	生物資源学研究科	教育 10-1

人文学部

Ⅰ　教育水準　.....　教育 1-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 1-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、当該学部は文化学科及び法律経済学科の２学科から構成されている。文化学科では地域文化、言語文化、環境文化の専修コースと世界各地域の研究とをクロスさせて世界各地域の固有の文化について学際的に探求するように教員が配置されており、法律経済学科では法政コースと現代経済コースが設けられ現代の社会的問題を広い視野から教育研究するように教員が配置されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動に積極的に取り組み、「授業改善のためのアンケート」を実施して教育内容や授業方法の改善に役立てている。また、卒業生が就職した事業所へのアンケート、授業満足度の調査を行い、その結果を学部長、副学部長等からなる組織委員会で詳細に検討の上、教育改善に役立てているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、人文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、人文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、教養科目を広く共通科目として履修させており、専門科目への橋渡しとして基礎総合科目、専門基礎科目を履修させた上で専門科目、少人数の専門演習を行っている。卒業論文は複数教員で審査に当たっているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、現役の弁護士による実践的授業、キャリア支援の授業の開講、他学部科目の履修、放送大学科目の認定等を積極的に取り入れているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内

容は、人文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準を上回る

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、文化学科の 1 年次に PBL 教育の一環と位置づけられるオリエンテーションセミナーの開講、地域総論の開講等学生の理解度を高めるための工夫、法律経済学科における FD 活動での各種アンケートに基づく指導方法の検討、講義内容の理解度のチェック、電子シラバスの導入、教員のシラバスに沿った授業、学生の「授業改善のためのアンケート」から、「授業の準備はよくなされていた」、「授業に対する教員の熱意が感じられた」等学習指導方法の改善がなされているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、各科目の履修年次の指定、年間履修申告単位数の上限指定により学生の学習への集中度を高めており、授業以外での学習においても e-learning システムである Moodle を用いた教材の提示、レポート提出、質疑応答が行われている。また、学生用のコンピュータを配置し、授業ではティーチング・アシスタント（TA）を配置しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、人文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、人文学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、４年次在籍者に対する卒業生の比率は 83.9%であり、教員免許、図書館司書、学校図書館司書教諭、学芸員等各種資格を取得しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、同大学における教育全般及び教養教育についての卒業生の満足度は必ずしも高くはないが、学部の専門科目及び卒業研究指導では 80%以上の卒業生が満足と答えており、学業評価に関する卒業生の評価もおおむね良好

な平均値を示しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、人文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、進学者は 5.5%、就職希望者は 81.1%であり、就職希望者の 96.8%が企業及び官庁等を中心に就職しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、関係者間での外国語によるコミュニケーション能力についての評価は低いが、専門的知識や広い教養に基づく視野の広さと柔軟な思考力については評価が高いなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、人文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は 1 件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

人文社会科学研究科

Ⅰ　教育水準　.....　教育 2-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 2-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、地域文化論専攻と社会科学専攻（大学院修士課程）が置かれ、それぞれの専攻に二つの専修コースが設けられている。教授、准教授には研究指導教員資格を持つ教員、また講師には授業担当教員資格を持つ教員を適切に配置しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、大学院教育に特化したファカルティ・ディベロップメント（FD）研修会を実施しており、「授業改善のためのアンケート」も実施しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人文社会科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、人文社会科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、地域文化論専攻では広い分野をカバーする科目が開講されており、社会科学専攻では行政、法務関連の実務的科目が開講されているほか、両専攻にまたがりフィールドワークも行い報告書を提出させるユニークな「三重の文化と社会」が開講されて重要視されているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、一定範囲で他専攻の科目履修を認めるほか、夜間授業の開講、昼夜両方の授業を受講して１年間で修了可能な短期在学コースや３年～４年かけて必要単位を修得する長期履修学生制度等、学生の科目履修の便宜を考慮するシステムが設けられているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人文社会科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結

果、教育内容は、人文社会科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、演習、特講等での少人数教育と対話・討論型授業を重視しており、電子シラバスの導入による計画的な授業を実施し、主指導教員により日常的に研究指導を行っている。また、学位論文の発表会を開催し、一定レベルの論文が提出されるような仕組みを整えているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、指導教員による体系的・計画的な学習の指導が行われているほか、大学院生専用の自習室が設置され、自主的な学習を促しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、人文社会科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、人文社会科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、一定水準の学力を要求していることから、学位授与率は 62.5%である。また、教員免許取得者も出ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、「授業改善のためのアンケート」における学業の成果に関する大学院生の評価は全体的に高く、また、教育の在り方に対する満足度も高いなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人文社会科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、人文社会科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5.　進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、研究科修了生のうちで進学者は２名と少ないが、就職希望者 15 名は企業、教員等各方面で就職が決まっており、就職率は 93.3%に達しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、当該研究科が修了生を対象に行ったアンケート調査の結果によると、当該研究科で学んだ専門知識が社会に出て役立っているかという点では必ずしも評価が高いとはいえないが、当該研究科で研究し、学んだことが有意義であったかという点では高い評価が得られているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人文社会科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、人文社会科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は１件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

教育学部

Ⅰ　教育水準　.....　教育 3-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 3-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、専任教員を適正に配置し、受験者倍率は 5.0 と高い数値を示している。専任教員一名当たりの学生数において新課程では高い数値を示しているが、全体としては適正な数値内に収まるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、「対話性」を込めた「学生による授業評価」、ボトムアップ的なファカルティ・ディベロップメント（FD）活動としての「教員と学生が語る会」、さらには「教育実地研究」における学習成果の発表会等、教育の内容方法に関する現状認識及びその改善に関して教員と学生との相補的、相互的な関係を強化しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、学校教育教員養成課程のカリキュラム改革が継続され、その過程で「コア科目群」の設置あるいは教員免許法以外の必修科目の設定等の積極的な試みがなされるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、成果はまだ出ていないが、平成 18 年度から日本語教育コース及び天津師範大学とのダブルディグリー・プログラムがスタートしており、ユニークな試みが行われるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3.　教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、教育学部における固有の教育目標と連結させながらカリキュラム編成・実施上の工夫として「教員養成型 PBL 教育」を考案し、それを推進するなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、シラバスの構成を工夫して学習課題を提示したり、授業者が適宜「授業通信」を発行したり、さらには学内 LAN で受講者との双方向的な交流を図っているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4.　学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、教育実習に臨む以前に履修しておくべき授業科目を指定することで「教育実習履修資格」を明確にして教員免許取得に備えるとともに、学芸員、認定心理士、公認スポーツ指導者等の資格取得にも積極的に対応するなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、自分自身の学業成果及び授業の成果に関して学生自身が評価することを「教育満足度調査」及び「授業改善のためのアンケート」によって進めており、授業に対する学生側の評価、授業に対する満足度において５点満点の 4.2 の数値を示すなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5.　進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、学部全体の就職率も 91.9%と高く、学校教育教員養成課程卒業者の教員就職率も 82%と高い数値を示すなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「関係者からの評価」については、「三重大学卒業生、修了生及び事業所への大学教育についてのアンケート調査」が行われており、卒業生の自己評価では教員に強く求められる資質に関わる多くの項目でおおむね高い数値に、また事業所の卒業生評価ではほとんどの項目において良好な評価になるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は２件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

教育学研究科

Ⅰ　教育水準　.....　教育 4-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 4-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、専任教員を配置し、さらに教員の教育・研究能力の審査及びその向上のための体制作りが進められている。研究科全体の入学定員充足率が90％であること、３専攻の間における入学定員充足率の差があり、特に教科教育専攻において低くなっているものの、許容範囲内にあるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会によって、教育の内容や方法に関する改善策を検討するために「修士論文と大学院授業に関する調査」が実施されるとともに、その結果の分析を通して改善事項の把握が進められるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、教育に関する専門的な研究の推進及び教育現場においてリーダーシップを発揮できる人間性の涵養といった当該研究科の二つの教育目的に沿った教育課程の編成を達成すべく、所属専攻・専修の履修、計画的・実質的な修士論文指導過程、リーダーシップの涵養、今日的な教育課題への洞察力等の目標に対応させた履修形態が採られるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、個々の講義、演習さらには修士論文において教育現場における動向等の社会的な要請を取り入れる努力を進めるとともに、学生からの要望の強い複数教科の免許状取得のために学部の授業履修を認めるなど、社会や学

生からの要請に対応させた教育課程の編成が図られるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、少人数での授業を活かすために演習科目のみならず講義科目においても対話・討論の方法が取り入れられるとともに、教科・教職の専門内容に加えて教材開発においても、教育現場との連携が図られるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、入学時に履修指導を実施する中で学生間・学生教員間の協働的雰囲気作りや修士論文に対する課題意識の醸成に努めるとともに、自習室・図書室等の環境整備を図っている。複数教員免許取得という要請に応えるために、研究科における学習時間の確保とのバランスの上で学部開設授業を履修できる体制を整えつつあるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、修了者の平均取得単位数は 33.5 単位で、修了必要単位をやや上回る程度の絞られた授業科目に専念しているという傾向が見受けられるとともに、一種免許所有者は全員専修免許を取得するなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、「教育満足度調査」によると「少人数の課題探求型の授業」「日常的な研究指導」「学位論文指導」の項目で、６段階評価のうち平均値４以上と満足度が高く、「授業改善のためのアンケート調査」においても「総合的に判

断してこの授業に満足できた」の項目は５段階評価のうち平均値４以上と高い数値を示すなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5.　進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、修了者 34 名中 29 名(85.3%)が就職をしており、その就職者中 69%が教員就職であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、修了生及び事業所に対する調査報告書によると、修了生及び就職先事業所がともに高い評価を示しているのは「人々の多様性についての理解力」「プレゼンテーションをする力」「文章の作成や表現の力」「ストレスに耐える力」「仕事の実行力」等の項目であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は２件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

医学部

Ⅰ　教育水準 ..... 教育 5-2

Ⅱ　質の向上度 ..... 教育 5-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準を上回る

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、学部教育の充実を図るために、医学系研究科･医学部産学連携医学研究推進機構、産学官連携講座/寄附講座の設置に加え、医学･看護学教育センターを設置している。また、学部を挙げて教員の充実を図っているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動は両学科においてそれぞれ独自の組織と計画に基づいて行われており、教務委員会、検討委員会の検討結果が具体的に改善策として実施に移されているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、医学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準を上回る

[判断理由]

「教育課程の編成」については、教育目標「感じる力」「考える力」「生きる力」とそれを支えるコミュニケーション能力の養成を目指し、社会のニーズに応じた質の高い医療専門家を育てるという明確な目標を持って教育課程を編成している。医学科では、プロフェッショナリズムの早期育成を図るため、医学専門教育の早期導入、プロブレム・ベースド・ラーニング（PBL）教育、学生の研究･探究心を養成する研究室研修、実践力育成に向けた臨床技術教育を実施している。進級時には共用試験（CBT、OSCE）を活用し、医師としての技能や態度を涵養するため５年次での診療参加型臨床実習、６年次での地域社会、僻地医療機関での実習を設定している。また、開発途上国を含む海外医学部との学部間学術協定により海外医学部における診療参加型臨床実習を可能とし、平成 16 年度、平成 18 年度に、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に採択されている。 看護学科では、学年進行により、人間と社会の理解、科学的思考力とコミュニケーション能力等基礎的な力から看護専門分野の基盤を強化拡大した授業へと進み、４年次には地域で生活する多様

な健康レベルにある個人･家族･集団等を対象とした看護活動や、看護を統合させる内容の配置としているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、医学部での、地域や僻地の病院に於ける実習、海外での診療参加型臨床実習を可能にするシステムの導入や、看護学科での看護実践能力を強化する教育等、実践教育を重視した教育により、学生や社会のニーズに対応するよう努めているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、医学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準を上回る

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、学部の教育目的に即して、課題探求能力や問題解決能力を身に付けるため、両学科において全国に先駆けてプロブレム・ベースド・ラーニング（PBL）チュートリアル教育を実施し、また、臨床実習の充実を図り、診療参加型臨床実習の実施や、実習場の確保等に積極的に努めている。さらに、電子シラバスの導入等、先進的な取組が行われているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、医学科では、PBL 教育において課題症例に対する学生の自主的な学習がよく行われており、その学習過程のチェック及び時間の確保が適切になされている。さらに、研究室研修の成果が現れており、共用試験 CBT では全国的に高い成果を示している。 看護学科では、PBL、少人数教育を進める上で自学自習の時間を確保するための工夫が行われているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、医学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、学部教育の目的に照らして編成された教育課程の修得状況は良好であり、医師及び看護師の国家試験合格率も全国上位を維持しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、学生の満足度調査や学年別到達度調査の結果は相応の評価が得られている。このうち、「外国語でコミュニケーションをする力」や「想像が豊かで新しいアイディアや発想を生み出す力」は低い評価であり、次項の「関係者からの評価」も同じ傾向を示している。一方、学生自身は高い評価を与えている「専門知識や技術」は、事業所の評価は低く認識のずれを感じさせるが、総じて学生の評価は肯定的であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、医学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、国家試験の高い合格率を基に、医師や看護師等として就職すると共に、大学院への進学者もあるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、学生自身の評価と関係者の評価が必ずしも一致しない点については就職後、実務についてはじめて認識されることが多いことを考慮しても、「外国語によるコミュニケーション力」、「専門知識や技術」、「発想力」、「ディスカッション力」等は今後に期待する面が大きいが、「他人との共同作業」については共に評価しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、医学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は４件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。

医学系研究科

Ⅰ　教育水準　.....　教育 6-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 6-5

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準を上回る

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、平成 15 年度以来医学系研究科の組織変更を行い、平成 17 年度部局化を実施、寄附講座、産学官連携講座の増設、連携大学院設置を行い 6 大講座、64 教育研究分野とした。看護学専攻は 4 領域 9 分野編成とし、組織編成を確立した。 指導教員は専任教員、学部兼務教員の他学外兼務教員が担当している。大学院教育プログラム「高度医学研究者養成プログラム」「高度医療人養成プログラム」は平成 18 年度魅力ある大学院教育イニシアティブ(文部科学省)に、「がんプロフェッショナル養成プラン」は平成 19 年度がんプロフェッショナル推進プラン(文部科学省)に、「メディカル･ビジネス Ph.D. プログラム」は三重県メディカルバレー創造的人材育成事業に、「バイオ･メディカル創業プログラム」は 17 年度派遣型高度人材育成協同プラン事業(文部科学省)にそれぞれ採択されているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動として、大学院教育プログラムの充実を図っており、平成 17 年度、平成 18 年度には「生命医科学特論Ⅰ、Ⅱ」、「臨床医科学特論Ⅰ、Ⅱ」、「臨床研究特論」を開講し「高度医学研究者プログラム」、「高度医療人養成プログラム」を改善、平成 19 年度には種々のがん専門スタッフ育成に特化した教育プログラムの整備を行っている。文部科学省、三重県の事業等に採択されている。 e-learning に向けた準備を開始しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準を上回る

[判断理由]

「教育課程の編成」については、医学系研究科において、高度医学研究者、がん専門医療職者を含む高度医療人、メディカルビジネスエリート育成のため多様な教育プログラム

を提供している。大学院入学者が増加した。教育プログラムが評価され、文部科学省の魅力ある大学院教育イニシアティブ等に採択されたなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、多様化する人材育成の社会的ニーズに対応して、生命医科学専攻、医科学専攻では臨床研究特論、臨床研究プログラム、臨床研究地域プログラム、がんプロフェッショナル養成プラン、メディカル･ビジネス Ph.D.プログラム、バイオ･メディカル創業プログラムを開設したなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準を上回る

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、修士課程では講義を主とし、博士課程では演習、実験･実習の割合を多くするなど、教育目標に応じてバランスよく配置している。医科学専攻のバイオメディカル実習ではバイオベンチャー企業との共同研究に大学院生を参加させるオン･ザ･プロジェクト･トレーニングを実施、看護学専攻ではクリティカルシンキング能力の育成に努め、専門技術修得のためには少人数演習の形をとるなど、充実したプログラムを実施しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、講義内容の整理や自身の研究テーマ決定に至る過程で、学生の自主的な取組と決定ができるよう促している。社会人学生の増加に伴い昼夜開講制や e-learning を導入して学生の自主的な学習を可能にしている。看護学専攻では、自己学習の場所を確保し、必要な機器の整備をしている。学部独自の研究助成制度は大学院生の主体的取組の促進に有効であるなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

4.　学業の成果

期待される水準を上回る

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、修了時の達成度の把握･評価を行い、良好と判断している。また、提出論文の審査により、多くの学生が課程修了基準を充たしている。生命医科学専攻、看護学専攻についても成果を現しているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、大学院生に対する満足度調査では、すべての項目で肯定的な評価を得ている。看護学専攻でも同様の結果を得ているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

5.　進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、医科学専攻(修士課程)、生命医科学専攻(博士課程)、看護学専攻(修士課程)のそれぞれにおいて、人材養成の目的に合致した進路状況を示しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、「外国語でコミュニケーションをする力」は「余り身についていない」という評価であり、「論文作成等で読み書きの能力は訓練されているが、会話の教育は十分でない」と考えられ、国際的に活躍できる人材作りには外国語によるコミュニケーション能力は不可欠であることから、海外派遣以外の方策も検討されるべきである。しかし、総じて就職先等の関係者による評価は良好であり、看護学専攻修了者は高度看護実践指導者として医療機関に認知されているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は４件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。

工学部

Ⅰ　教育水準　.....　教育 7-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 7-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、三重大学の教育目標は、「感じる力」、「考える力」、「生きる力」であるが、工学部は独自にこれに、コミュニケーション力や創造力を含む、「動かす力」を加えて、それらが実現できるような組織体制を考慮している。当該学部は、６学科で構成され、各学科は２～３の大講座で編成されており、教員の学科ごとのバランスは平均化されている。また、学部学生の現員数と定員との関係は適当である。さらに、平成19 年度から教育研究活動の運営体制を再編し、強化に努めるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、平成16年度から授業参観、授業アンケートとその公開、教員へのフィードバック等が行われている。また、教員は PDCA 自己申告書を作成するなど自己評価に努めており、それらの結果、学生満足度調査において教育改善の効果が現れるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、学科ごとにカリキュラムの改定を行い、その効果が評定平均値の向上、国際コンテスト順位の相対的向上に数字として現れており、努力の成果が見られるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、社会からの要請についての組織としての考え、施策についての対応が明確とは言えないものの、授業の開放、バレンシア州立工芸大学との単位互換協定と留学生交換、インターンシップの充実や学生満足度アンケートを実施するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容

は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、少人数教育を意識した演習、実験、実習を多く設定する工夫がカリキュラム等に見られる。教員一名当たりの各年次学生数は４人であるが、ティーチング・アシスタント（TA）の積極的採用によって少人数教育を強化するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、実験、演習を通しての学生の習熟度を把握することによって実践性と主体性を育てること、平成 18 年度から実施しているウェブシラバスを活用すること、平成 18 年度からプロブレム・ベースド・ラーニング（PBL）教育の設定を行うなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、修業年限通りの卒業生の割合は平成 16 年度から平成 19 年度で、おおむね 70～80％で変動なく、専門教育科目における成績評価点も 10 点満点で７～８点をピークとする分布で大きな変動はない。単位修得状況、成績評価の分布、資格取得者数等が良好であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、在学生の満足度調査、修学達成度評価が平成 19 年度に行われている。４つの力の取得に関する自己評価も専門の授業、少人数授業についての満足度もおおむね年次に関係なく中位より高い値にあるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5.　進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、卒業生の半数以上は大学院に進学しており、就職先は製造業、建設業、情報通信業がほとんどであり、教育内容に合致した業種に就職しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、平成 19 年に行われた三重大学卒業生、修了生と事業所へのアンケート調査によると、英語コミュニケーション力の弱さを除くと、中位以上の評価を得ており、生きる力や動かす力に相当する項目の満足度や評価が高いなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は 1 件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

工学研究科

Ⅰ　教育水準　.....　教育 8-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 8-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、大学院博士前期課程においては6専攻と社会連携講座で構成され、大学院博士後期課程においては2専攻で構成されている。大学院学生の現員数は大学院博士前期課程、大学院博士後期課程ともに一定の水準にある。また、工学部と同様、平成19年度から教育研究活動の運営体制を再編しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、教育・研究企画部門の戦略ワーキンググループ活動とファカルティ・ディベロップメント（FD）講演会の開催が主体であり、工学部と同様の体制である。さらに、カリキュラム改革、プロブレム・ベースド・ラーニング（PBL）教育科目の設定、教員意識改革、修士論文発表会の試行等教育内容、方法の改善の活動を行うなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、工学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、大学院博士前期課程の教育課程においては、専門的な能力を養うための専攻指定科目、研究領域・特論演習科目を主として、実践的な能力を養うための研究科共通科目で編成されている。また、修士学位論文のテーマに対しては、研究内容について検討、討論を行う特別研究が毎期必修科目として実施され、修士学位論文完成までの計画的指導を行っている。博士後期課程の修了要件は、博士学位論文に加えて各種教育科目を含めて合計10 単位以上である。これらのうち、4単位については、他専攻、他研究科、他大学院での修得単位を認めており、当該専攻開講科目以外に幅広い教育を受けられるようにしているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にある

と判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、学生からの要請に対し、授業の開放、インターンシップ、ワーキンググループの常設等の対応がなされている。社会からの要請に対しては、大学外技術者に対するキャリアアッププログラムの開発とその大学院教育への展開等の活動を行うなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、工学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、少人数教育を意識した演習を多く設定する工夫がカリキュラム等に見られること、少人数教育の満足度が学生アンケート等で高いなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、演習を多く設定すること、平成 19 年度からは新たに PBL 教育科目を 23 科目設定すること、技術者キャリアアップ教育プログラムの開発などの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、工学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、大学院博士前期課程の平成 17 年度から平成 19 年度の修業年限通りの修了生の割合は、94.4%であり、過去に遡っても 90～95%である。専門教育科目における成績評価点も平成 18 年度と平成 19 年度では大きな変化はない。また、情報工学専攻におけるソフトウエア開発技術者の資格取得率は 30%と高いなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、在学生の満足度調査が行われており、

少人数課題探求型授業、学位論文指導、日常的な研究指導等少人数教育に対する満足度が高いなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、工学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、大学院博士前期課程修了生の大部分は企業に就職し、就職率は 99.5%に達する。後期課程修了生もほとんどが民間企業に就職し、就職率は 90.9%と高いなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、平成 19 年度行われた三重大学卒業生、修了者及び事業所へのアンケート調査によると、英語コミュニケーション力の弱さを除くと、中位以上の評価を得ており、生きる力や動かす力に相当する項目の満足度や評価がおおむね高いなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、工学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は４件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

生物資源学部

Ⅰ　教育水準　.....　教育 9-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 9-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、３学科と附属施設を擁する当該学部の教育は、平成18年度の大学院重点化と平成19年度の連携大学院発足後、研究科所属の教員が最先端研究成果を取り入れつつ、学部の理念、目的に則して実施しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動については、学生のアンケートに基づいたシラバスの改定、教員間の授業参観のみならず、最近始まった教育表彰制を取り入れ、成果報告書から個々の教員が真摯に教育活動の改善に努めている。また、表彰教員による公開授業を実施している。これらの取組は外部評価委員から高い評価を受けているとともに、当該学部の教育プログラムは、現時点で一部の学科と講座ではあるが、日本技術者教育認定機構（JABEE）認定されているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、生物資源学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、生物資源学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、当該学部の教育課程は、１年次から２年次の共通教育としての必修の理系基礎教育科目及び学科必修としての専門基礎科目をベースにし、２年次からのより深い専門教育が組み立てられている。また、学部の中期目標である現場教育の重視と学生の学習意欲を積極的に引き出すための実験、実習が講義や演習と同時並行的に行う編成となっているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、学生や社会からのニーズに対応して、

インターンシップ、放送大学との単位互換協定の締結やスーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）を通じて地域の要請に応えている。また、学生を対象とした満足度調査を行い、学生から高い評価を得ているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、生物資源学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、生物資源学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、授業形態は、講義、実験、実習等の授業がバランスよくかつ系統的に配置され、就学カウンセラーによるきめ細かい対応がなされており、学生の積極的な学習への取組に応えている。また、学力不足の学生に対する補習授業を行っているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、学生の主体的な学習を促す取組として無線 LAN を高度に利用した学習指導法の工夫を行っており、当該学生による満足度調査から見てもおおむね高い評価を受けているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、生物資源学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、生物資源学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、単位修得状況や修業年限どおりの卒業者の割合等のデータの状況から教育の成果や効果が上がっているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、授業改善のためのアンケート調査の結果から、総合満足度については講義最低点が 2.5 強であるが、講義平均点が 3.5 強である。

また、卒業時に行われた満足度のアンケートでは、学業の成果に関する学生の評価が高いなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、生物資源学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、生物資源学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、就職先は、製造業、卸売・小売業、公務員等には一定数就職しており、学部教育が深く関わる産業、すなわち農林水産業、食品業の基幹産業に多くの就職者を出し、教育目的にもかなった結果となっているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、企業へのアンケート調査から、コミュニケーション力、相手への誠実さ、多様性を理解する力、及び共同して作業する力があるとの卒業生に対する事業者からの評価がなされているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、生物資源学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、生物資源学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は３件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。

生物資源学研究科

Ⅰ　教育水準　.....　教育 10-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 10-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、当該研究科は全国８番目の国立大学法人農学系単独大学院となるとともに、平成 19 年度に独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構野菜茶業研究所及び養殖研究所との連携大学院も発足させた。各専任教員の配置は教育目的に則しており、優れている。また、「紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター（FS センター）」と附属施設である練習船が、「山から海まで」を対象とする総合的フィールド科学の教育研究も良好であるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、平成 18 年度に大学院重点化、平成 19 年度に連携大学院が発足したばかりであるが、教育体制は充実している。具体的には、ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動については、全学組織である大学院教育実質化ワーキングあるいは高等教育創造開発センターと研究科組織である FD 部会、大学院教務部会が協調して活動し、シラバスの改善等大学院教育の充実を図っているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、生物資源学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、生物資源学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、大学院博士前期課程、博士後期課程ともに研究科の人材養成の目的に則した体系的なカリキュラム構成による教育課程が構築されていること、他研究科の科目履修や長期履修制度、早期修了制度を導入しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、他専攻及び他研究科の科目を 10 単位まで修了要件に含められることを可能とし、学生の専門性と学際性の両方の要求に対応でき

る履修制度が整備された。また、大学院生の授業の満足度アンケートでは良好な結果が得られたなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、生物資源学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、生物資源学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、博士前期課程開講科目群を整備し、講義と演習がペアとなる科目構成への改善、講座共通科目の充実等授業形態の工夫は相応である。また、大学院シラバスの整備・充実並びに平成 18 年度にはウェブサイト上へシラバスを開示しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、ティーチング・アシスタント（TA）は全大学院生の約 3/4 が従事しており、TA を教育トレーニングの機会に充てている点は相応である。さらには、研究設備の充実や研究に必要な電子情報に自由にアクセスできる環境の整備がなされているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、生物資源学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、生物資源学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、博士前期課程、博士後期課程ともに学位取得状況はそれぞれ 88%、51%と良好である。課程博士学位の取得条件として２件以上の報告を義務付け、学位の高質を保っているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、各科目についての学業の総合評価の平均点が５段階中４であり、多くの大学院生が授業科目に満足している。また、学生に対するアンケートの質問内容が学生の立場からわかりやすく細部まで配慮されているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、生物資源学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、生物資源学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5.　進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、就職希望者中、専門的・技術的職業従事者の割合は、博士前期課程で 64.6%、博士後期課程で 100%と高い割合の学生が教育目的に直結する分野において、専門性を必要とする職業に就いているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、54 件の関係者への 28 項目における卒業生評価の平均点が 4 段階中 3.1 以上であり、就職先事業所の評価は全体的に良好である。また、企業へのアンケート調査から、相手とのコミュニケーション力、共同して作業する力があるとの修了生への高い評価がなされているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、生物資源学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、生物資源学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は３件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断さ

れた。

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

1.	人文学部・人文社会科学研究科	研究 1-1
2.	教育学部・教育学研究科	研究 2-1
3.	医学部・医学系研究科	研究 3-1
4.	工学部・工学研究科	研究 4-1
5.	生物資源学部・生物資源学研究科	研究 5-1

人文学部・人文社会科学研究科

Ⅰ　研究水準 ..... 研究 1-2

Ⅱ　質の向上度 ..... 研究 1-3

Ⅰ　研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 19 年度における教員一名当たりの平均学術論文は 1.57 件、著書 0.45 件、国内学会口頭発表数 0.43 件、国外学会口頭発表数は 0.24 件である。国内の他大学・研究機関との共同研究、シンポジウムの開催回数は、それぞれ 52 件、17 件にのぼっている。また、国内学会での招待講演数、教員の海外派遣の数も増えている。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択数は 24 件であり、受託研究、受託事業、寄付金も実績を積み上げている。また、地域の政策形成に寄与する教員がいるなど、相応の成果がある。

以上の点について、人文学部・人文社会科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、人文学部・人文社会科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、人文学部研究センターに研究対象・目的別に四つの研究センターを置き、共同プロジェクトによる研究を進め、その研究成果は著書・論文により公表されている。社会、経済、文化面では、四日市公害問題についての学際的・総合環境科学的な研究に基づくシンポジウムの開催、紛争の原因としての開発問題や紛争後の国家再建などについて学際的に考察する平和学の研究による優れた業績をはじめとして、四国遍路がもつ巡礼と国家政策、国内観光やマスメディアとの関係を文化地理学、文化理論を用いて解き明かす研究など社会的に注目されている業績がある。これらの状況などは、相応な成果である。

以上の点について、人文学部・人文社会科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、人文学部・人文社会科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は１件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

教育学部・教育学研究科

Ⅰ　研究水準 ..... 研究 2-2

Ⅱ　質の向上度 ..... 研究 2-3

Ⅰ　研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、外部資金の調達状況については、科学研究費補助金の申請件数、採択金額について増加傾向にあるが、新規採択件数、継続分を含む採択件数には変化は見られない。学術論文の発表状況については、日本語著書及び外国語著書については増加傾向にあるが、国内、国際双方の学術論文、さらに学会における発表においては、減少しつつあることは、相応な成果である。

以上の点について、教育学部・教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、教育学部・教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、教育学部・教育学研究科において、教育・心理、特別支援教育をはじめ、人文・社会、自然さらに保健・体育、芸術の各分野で相応の優れた成果を上げている。学術面では、専任教員の学会賞等の受賞数は平成 16 年度から平成 19 年度にかけてそれぞれ１件、１件、２件、１件となっている。さらに、三次元人体形状計測を基に新たな衣服設計システムを構築した研究や幼児を対象に、積極的教示行為の獲得時期を実験的に解明した研究において卓越した成果を上げている。法人化以降、年次計画の元で異なる専門領域が協働して新たな研究分野を開拓するための研究プロジェクトが展開されている。社会、経済、文化面では、音痴矯正に対して生理学的観点から、新たな理論を構築する研究等の卓越した成果が出されていることは相応な成果である。

以上の点について、教育学部・教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、教育学部・教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は２件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

医学部・医学系研究科

Ⅰ　研究水準 ..... 研究 3-2

Ⅱ　質の向上度 ..... 研究 3-3

Ⅰ　研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、法人化後の専任教員数削減の中にあって、学術論文数、教員一名当たりの論文数は大幅に増加し、著書数、国内外学会発表数も高い水準を維持している。また、共同研究、学部内での学際的研究、国内外学会･会議開催数も増加又は高い水準を維持している。さらに倫理委員会に申請された研究課題の増加は、医学･看護学分野の臨床、疫学研究の活発さを示している。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金への応募は教員のほぼ全員が行い、その採択率は 25～40%台を維持しており、着実な獲得状況といえる。この他、共同研究費は平成 16 年度のほぼ 7 倍と増加し、受託研究費、奨学寄附金の受け入れ、産官学共同研究も活発に行われている。さらに、学内努力ではあるが、学部長調整費により「新研究プロジェクト」を立ち上げ研究費助成を行っており、若い教員の研究推進に大きな力となるなど、研究活動の活発さが窺われることは、優れた成果である。

以上の点について、医学部・医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、医学部・医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2.　研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、研究科の研究目的に照らし、戦略的大型プロジェクトとして平成 18 年度特別教育研究経費(戦略的研究推進)の助成を受けた脳血管･神経研究センターにおける「炎症性血管病変による神経機能障害のメカニズムの解明」に関する研究、トランスレーショナルリサーチ事業に採択された「がんワクチン、腫瘍免疫療法の基礎的研究とその臨床応用研究」、科学技術振興機構戦略的創造開発推進事業(CREST プログラム)に採択された「免疫難病･感染症等の先進医療技術」の研究は、それぞれ高い評価を受けている。提出された論文について、学術面では、寄生虫学、血液内科学、皮膚科学、胸部外科学、産婦人科学に卓越した成果と評価できる論文があり、他の多くの論文が優れた論文と

の評価を受けている。社会、経済、文化面では、件数は少ないものの、半数が「相応の成果」との評価となっているなどの相応な成果である。

以上の点について、医学部・医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、医学部・医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は３件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。

工学部・工学研究科

Ⅰ　研究水準 ..... 研究 4-2

Ⅱ　質の向上度 ..... 研究 4-3

Ⅰ　研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況について、平成 19 年度の教員一名当たりの平均論文数が約 4 件であり、そのうち欧文論文が和文論文の約 3 倍となっている。知的財産の出願届出数及び特許出願数は平成 19 年度で 39 件である。平成 19 年度の研究資金の獲得状況は、科学研究補助金 8,900 万円、共同研究・受託研究費、寄附金はそれぞれ約 1 億円、約 1 億 2,000 万円、約 5,400 万円で、企業・政府機関・地方自治体との共同研究を活発に実施している。学会賞も主要学会の論文賞を多く得ており、平成 16 年度以降、主要な受賞実績が 16 件あるなどの相応な成果がある。

以上の点について、工学部・工学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、工学部・工学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面ではロボティクス・メカトロニクス、地球環境・エネルギー、ナノサイエンス・ナノテクノロジー、先進物質・先進材料、社会基盤・生産分野で先端的な研究成果が生まれている。卓越した研究成果として、例えば、有機スピン源と磁性金属イオンからなる磁性材料の開発研究がある。安定な磁性三重項カンベンの発見にはじまり、室温でも安定な有機磁性体の合成、有機スピン－金属間に存在する相互作用の発見等、将来の有機磁性材料開発に道を開いた研究である。また、社会、経済、文化面では、無接触伝送技術を用いたメカトロ要素自律分散化と分散化されたユニットを統合制御する仮想伝播アルゴリズムの研究は学術的にも卓越した業績であるが、無配線化した柔軟で組み替え可能なシステムの可能性を示しており、産業の面で将来の自動化機械の進歩の鍵となるものであることは、相応の成果である。

以上の点について、工学部・工学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、工学部・工学研究科が想定している関係者の「期待される水準に

ある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は３件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

生物資源学部・生物資源学研究科

Ⅰ　研究水準　.....　研究 5-2

Ⅱ　質の向上度　.....　研究 5-3

Ⅰ　研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 19 年度の教員一名当たりの平均学術論文数が 3.23 件、国内外の口頭発表が 5.82 件である。著書等の発表状況は 189 件、国内外の学会シンポジウムの開催は 60 件、国内外の招待講演は 80 件である。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択数（採択金額）が年 51 件（約 1 億 1,570 万円）で、採択率が過去 4 年間を通して 30～44%となっている。その他の競争的外部資金の受入れ状況は、平成 16 年以降で科学技術振興機構（JST）、経済産業省、農林水産省など大型の競争的資金を多く獲得しているなど活発な研究活動が展開されていることなどは、優れた成果である。

以上の点について、生物資源学部・生物資源学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、生物資源学部・生物資源学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2.　研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、生命科学に関する基盤研究、地域に根差した研究推進、並びにプロジェクト型研究の各分野において優れた研究成果を収めた研究を挙げており、その中には国内の学術賞や JST 戦略的創造研究推進事業（CREST）や JST 戦略的創造研究推進事業発展研究（SORST）に採択された研究課題が含まれている。卓越した研究成果として、例えば、「植物系分子素材の高度循環システムの構築」、「大麦種子の皮裸性決定遺伝子の同定」、「ソムリエ・ロボットの完成」などがあり、国際的に高い評価の成果を上げている。社会、経済、文化面では、地域に根差した研究活動を推進しており社会的に有用性の高い研究を目指しているが、その成果は学術的研究に比べ低く、全体的に相応の業績である。これらの状況などは、相応な成果である。

以上の点について、生物資源学部・生物資源学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、生物資源学部・生物資源学研究科が想定している関

係者の「期待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は３件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。

国立大学法人三重大学　　大学番号：５２

申立ての内容	申立てへの対応
【評価項目】 ２　項目別評価 Ⅱ　業務運営・財務内容等の状況 (1)　業務運営の改善及び効率化に関する目標 【原文】 【評定】中期目標の達成状況が不十分である 【申立内容】 【修正文案】の通り変更願いたい 【修正文案】 「中期目標の達成状況がおおむね良好である」 【理由】 当目標の評定理由では、「中期計画の記載３３事項中３２事項が「中期計画を上回って実施している（Ⅳ）」又は「中期計画を十分に実施している（Ⅲ）」と認められる」と、記載されており、その割合は96.97%である。 一方、「中期目標期間の業務実績評価に係る実施要領」の「３中期目標期間の評価の実施方法」中、「(3)項目別評価」の②の「ウ.国立大学法人評価委員会による評定」では「Ⅳ又はⅢの割合が９割以上」の場合は、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」と評定することが明記されており、本学はこの基準を大きく超えている。 ついては、今回の「評定」について修正願いたい。 なお、本学では外国人教員の増加方策として、平成２０年度に特任教員としての採用制度の導入や予算支援を行うなどの改善	【対応】 原案のとおりとする。 【理由】 「国立大学法人及び大学共同利用機関法人の中期目標期間の業務実績に係る実施要領」の「ウ．国立大学法人評価委員会による評定」においては、「別添１の共通の観点に係る取組状況等も勘案し、４つの項目毎に、中期目標の達成状況に基づき以下の５段階で評価」し、また、５段階評価についての判断基準は、「あくまでも目安であり、評定は、法人を取り巻く諸事情を勘案して総合的に判断する」こととしている。 このことから、大学院博士課程において、平成19年度の学生収容定員の充足率が90%を満たさなかったこと、外国人教員の採用の増加のための具体的な施策が十分には行われておらず、平成15年度から平成19年度にかけて外国人教員が減少していること等を総合的に勘案して評価したものであるため。

策に取り組み、その結果、平成２１年度には６名の外国人教員の採用が決定し、平成１５年度当初の外国人教員数を上回ることとなる。 　また、大学院博士課程において平成１９年度の学生収容定員の充足率が９０％を満たさなかったことについては、医学系研究科博士課程で定員の充足に向けた取り組みを積極的に行った結果、平成２０年度は、９３％、平成２１年度は、９８％（見込み）と改善されている。	